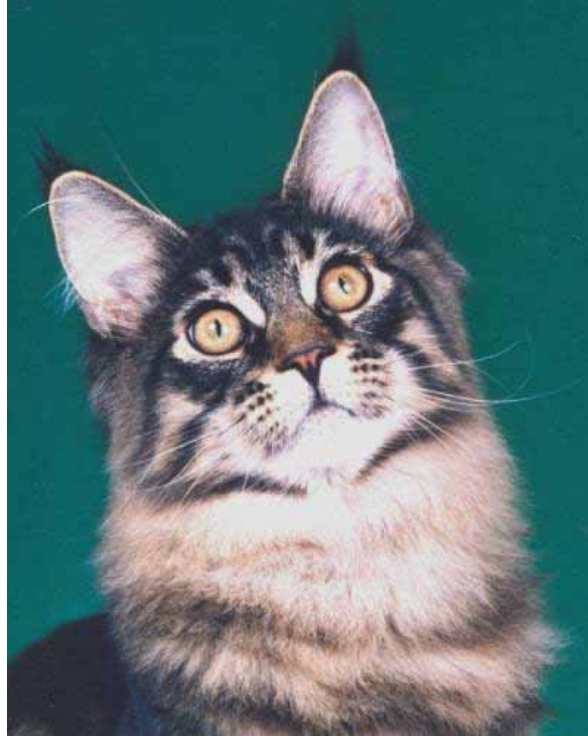


MAINE COON BREED SEMINAR



COONSBORO CALVIN COONIDGE
(クーンズボロ・カルヴァン・クーニッジ) (9ヶ月時)
1991年10月生まれ

CFA と TICA 両方で1回の SHOW で GRAND チャンピオンを達成した、最初のメインクーン
B/O: Jill & Dave Burrows (ジル&デイヴ・ポローズ)

このセミナーは2004年1月に Beth Hicks (ベス・ヒックス) により準備されました。

Beth Hicks(ベス・ヒックス): 1979年より TICA ジャッジ

TICA のスクール&リング、インストラクター

1972年, Tanstaaf cattery 設立

この写真によるメインクーンのセミナーを行う事は、世界中のメインクーンのブリーダー達の、素晴らしい支援と協力なしではあり得ませんでした。ここに使われている写真はアメリカ合衆国、ヨーロッパ、カナダ、南アフリカ、オーストラリア、そしてニュージーランドから送られたものです。ここに使われているメインクーン達の中には、家庭で愛されているペットの猫もいれば、ブリーディング・キャットもいますし、ショーキャットとして、世界の色々な団体で、それぞれのショーの場で、活躍しているアワード・ウィナーもあります。私はブリーディングを初めて30年以上になりますが、メインクーンのブリーダー、愛好家と言うのは、本当に特別な人達のグループだと感じるので、こう言う特徴の猫の写真を、例として見せたいと言う、私からの限定されたリクエストを沢山させて頂いたのですが、それに対する皆さんの反応は目を見張るものでした。このプロジェクトは、最初はTICAのジャッジ達に対して、写真で行うメインクーン・セミナーをしようとしてスタートしたのですが、それはすぐにもっと大きなものに発展していきました。そして、ここに協力して下さったメインクーンのブリーダー達、オーナーさん達、そして世界各国の猫クラブの方達が、このセミナーをメインクーンを学ぶ教材、トレーニングの材料として使用する事の許可を下されたのです。

このセミナーに使用されている写真の著作権は・版權は無制限の状態、次のような写真家の方達に属します。

CHANAN(シャナン)、Jim Childs(ジム・チャイルズ)、Carmelynn Cole(カーメリン・コール)、Jim Brown(ジム・ブラウン)、Feline Fotos by Helmi(猫の写真のヘルミ)、そして、その他すべての(プロも、そうでない方も)写真家の写真の版權も、それぞれの写真家に完全に属します。このセミナーで使用されているどの写真も、このセミナー以外に使用する場合には、それぞれの写真家による書面による許可証がない限り使用できません。

このセミナーの INTERNET で見るとは、次のアドレスとなります。 <http://home.midsouth.rr.com/mcseminar>

CHIN - 顎

マズルの四角さを完成させる為には、顎は充分幅があり、しっかり頑丈で上唇から(顎にかけて)の線が真っ直ぐでなければならない

減点: 弱い顎、引けている顎、幅が狭い顎、縦に厚みのない顎



牝(左)の猫の顎はもう少し強く、厚さがなければならない。
牡(右)の猫はマズルと顎の厚さのバランスがとれている。



牝(左)の顎は強く厚さもあるが、幅が狭い。
牡(右)の顎は引けてしまっていて、厚さもない。



引けている



縦の厚みがない



横の幅が狭い



マズルの四角さを完成させている縦横の幅、厚みが正しい顎の猫、又上唇から(顎の)のラインが真っ直ぐである

MUZZLE - マズル

四角い

減点: 突出して目立つウイスキー・パッド(ひげが生えている根元の辺りの部分が突出して目立つ事)



短いマズル



Snippy(小さくて、切れ端のよう)で、幅のないマズル



三角のマズル



丸っこいマズル



この猫のマズルは一見、四角に見えるがこれはこの猫の頭部の幅が、狭い為で、この牝は成長した時にもう少し頭部の幅が広がらないといけない



突出して目立つウイスキー・パッド(ひげの生えている根元の辺りの部分) - 四角くあるべきマズルと、強い顎と言う点から、外れてしまっている



四角いマズルの猫



顔に白い部分がある猫は、視覚的に、そう見えにくいですが、それを超えて実際の型・形をよく見る事



四角いマズルの猫

EYES - 目

大きくて少し長円形だが、大きく見開いた時には丸く見える。広めのセット(広めに付く)。目の外際は耳の外側の付け根の方向に向く

減点：目じりが上がった目、アーモンド型の目、目の上の部分が平らな目



アーモンド型の目



丸い(丸すぎる)目



目の位置の幅が広すぎる目



目じりがあがりすぎの目



目の上が平らの目



小さい目



この3匹の猫達は、目の付き方、大きさ、間隔が良い

PROFILE - 横顔(プロフィール)

緩やかに(gently)カーブした額。鼻までの部分は、緩やかに窪んだカーブで、流れるようにスムーズなライン

減点: 真っ直ぐな横顔、ローマン・ノーズ、突き出したバンブ

許容範囲: 僅かなバンブは子猫には許容される



真っ直ぐすぎる横顔



ローマン・ノーズ(鼻の根元が高めでカーブが浅く、鼻の先が盛り上がる)を示す横顔



突き出したバンブ



少々バンブ



珍しい型のバンブ



完璧(パーフェクト)な横顔



EARS - 耳

大きくて、耳のベース(耳の下の根元部分)部分の幅も広い。耳のベースの外際は、内際よりほんの少し後ろに付く。耳の、外際の高さは、目のてっぺんの高さより少し高い。耳の外側は、ほんの少し外側に向けて傾斜しており、時計の11時と1時の線を越えてはいけない。そして耳は頭部のかなり高い位置に付き、耳と耳との間隔は、1つの耳の幅以上、離れていてはいけない。耳の高さは幅より長さがなくてはならないが、頭部の長さとのバランスは、取れていなければならない。適度に程よく(極端でなく)とがった耳は、リンクス・ティッピングがある為、より高く見える。耳の飾り毛は耳の外側より、さらにもっと外に伸びる。

減点 : とても近くで、真っ直ぐ上に立っている耳、耳のベースの幅が狭すぎる耳、外側に広がりすぎた耳

許容範囲 : 子猫の場合には、近い(タイトな)耳付きは許容されるべきで、成長した猫には広がった(ワイドな)耳は許容される



ベース(付け根部分)の幅が狭すぎる耳



真っ直ぐ立ちすぎた耳



サイズは良いが外側に傾斜し過ぎた耳



小さすぎて広がりすぎた耳



耳のフレアー(スカートのフレアーの広がりのような、裾広がり型)
 耳のフレアーの形は、耳の内際と外際の位置関係によって、変わる。もし耳の外
 際が、だいぶ内際より、後方に付いている場合、耳のフレアーは広がってくる。



耳つきが下過ぎる



バランスが悪い あまりにも耳が高すぎて、先ず
 最初に耳しか、目に入らない!



リンクス・ティッピングは、メインクーンのルックスに劇的効果も
 もたらす。全く同じ猫を、違う背景の色で取った2枚の写真を見
 てみると(1枚はリンクスがまるで背景の色と、同化しているの
 で)、視覚に見えるリンクス・ティッピングが、いかに耳を尖って
 見せるかがわかる。



内側の線がカーブし過ぎた耳
 めったに見られない



全く同一の牝の写真。左が7ヶ月、中央が2才、
右が12才の時の写真。



2匹とも去勢していない牝で、左の猫は6才、中央の猫は5才。
耳付きが正しければ、耳が“南下”(地図の南のように、下に
さがっていく)する事はないはず。

良い耳付きとサイズの耳
とてもバランスが良い



同一の牝の写真で、左が8ヶ月で、中央の写真は5才。
正しく付いた耳はそのまま、正しいままである。

3才でとても良い耳つきの牝

COAT - コート

長くて、不揃い；肩の周りは短めで、そこから段々、背中と、体の側面と、後方に行くに従って長くなっていく。長くてたっぷり(Full)して、シャギーな毛が、おなかと、足の後ろ側に生えている。尻尾の毛は長く、たっぷりして流れるようである。ラフ(首まわりの飾り毛)は、年と共に発達する。

質：オール・ウェザー・コート(どんな天候にも大丈夫なコート)。ほんの少しのアンダーコートがあるので、コートは、ぺたっとした感じではないが、体に沿って、スムーズに生えている。コットン(綿)ぽい質感でない。

減点：アンダーコートがない事、お腹の毛がない事。全体的に揃って生えてしまっているコート



似たルックスの2匹の牝だが、ラフ(首まわりの飾り毛)のあるなしで、だいぶ違って見える事を見せる写真。これには、年令と言う要素もあり、右の牝は丁度、2才になったばかりで、ラフがこれから発達し始める時期である。



コートが体にぴったりしすぎている牝
この猫はもっとアンダーコートが必要である。



同じくらいの年齢の2匹の若い牝 右の牝のほうが、お腹のシャギー・コートが多い。

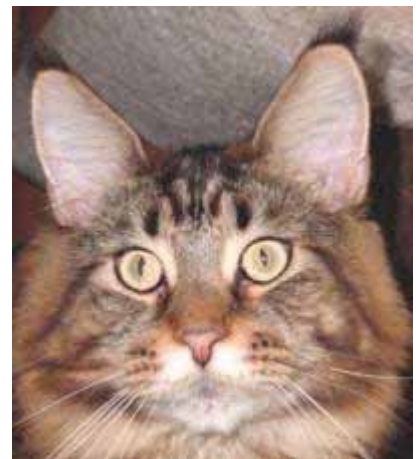


素晴らしいシャギーなコートと、首前面のラフと、流れるような長い尻尾の毛を持った、メインクーン達



HEAD - 頭部

幅があり、中庸な(極端でない)くさび形。身体と割合がとれたサイズ。幅よりは、長さのほうが少し長い。はっきりしたマズルのブレイク(分かれ目)が、高く突き出た頬骨の下部分から見る事ができる。世界各国の、色々な団体のそれぞれのスタンダードに適合した、色々なルックスのメインクーン達。



SIZE サイズ – MALE 牡 vs. FEMALE 牝

スタンダードは牡に有利である。牡と牝には、はっきりと差があるので、牡と牝のサイズの違いを許容する事は、絶対必要である

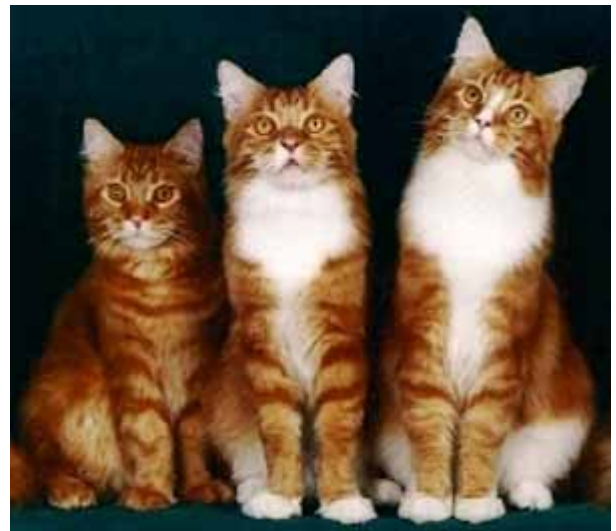
コメント:牡と牝のサイズの差は、他のどの猫種より、メインクーンは大きい。牡は平均で15 - 20ポンド(約6.8kg から約9.1kg)であり、牝は平均で9 - 12ポンド(約4.1kg から約5.4kg)となる。10ポンドの牝を、20ポンド牡の横に並べれば、牝は確かに小さく見える。しかし10ポンドの牝と言えば、小さい牝ではない。多くのブリーダー達は、牝はショーの場では、不利であると感じている。



左側は6ヶ月で14ポンド(約6.3KG)の牡である。その右側は彼の母猫で、彼女は11ポンド(約5KG)である。11ポンドの牝と言えば、決して小さくないが、又、あと半年もすれば、彼女は彼女の息子の横で、随分小さく見えることだろう。サイズの為に、タイプが失われてはいけない。このブリードは、ゆっくりと成長するのである。



11ヶ月の同胎のきょうだい。右側の牝は大きな牝であるが、身体つきと、脚の骨格の違いが、歴然とわかる。



1才の同胎のきょうだい。牡2匹と牝1匹。

TONGUE - 舌 (訳者注・これはユーモアですね！)

鼻をきれいに舐めるのに十分な長さであること！



皆さんに、このSHOW(セミナー)を楽しんで貰えた事を願ってます！

翻訳 : ハイガン美知子
監修 : 山田尚子
制作協力: 岩田麻美子